

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 全産業活動指数(2008年10月)

発表日 2008年12月19日(金)

～悪化は続く～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 岩田 陽之助

T E L : 03-5221-4525

(単位: %)

		全産業活動指数		第3次産業活動指数		鉱工業生産指数		公務等活動指数		建設業活動指数	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
07	7-9月	0.1	1.0	0.1	1.5	1.6	2.9	0.1	▲0.7	▲5.9	▲6.8
	10-12月	▲0.1	0.7	▲0.1	0.9	1.8	4.2	▲0.1	▲0.6	▲4.8	▲11.0
08	1-3月	▲0.9	0.4	▲1.1	0.6	▲2.2	2.3	▲0.7	0.0	0.0	▲9.6
	4-6月	0.5	▲0.5	0.9	▲0.2	▲0.1	0.9	0.2	▲0.4	▲1.7	▲11.9
	7-9月	▲0.8	▲1.2	▲0.6	▲0.8	▲1.4	▲1.3	▲0.3	▲0.8	▲1.8	▲7.9
07	5月	0.2	1.8	0.2	1.5	0.7	4.7	▲0.5	▲0.4	▲0.5	▲3.4
	6月	0.3	1.2	0.2	1.5	1.0	2.4	0.4	▲0.5	▲0.1	▲2.6
	7月	▲0.3	1.7	▲0.3	1.7	▲0.1	4.2	0.0	▲0.5	▲1.9	▲3.2
	8月	0.6	1.7	0.6	2.1	1.7	4.4	▲0.1	▲0.8	▲3.8	▲6.9
	9月	▲0.9	▲0.3	▲0.7	0.5	▲1.3	0.4	0.3	▲0.9	▲3.8	▲10.2
	10月	0.6	1.3	0.3	1.3	2.6	5.9	▲0.3	▲0.7	▲1.8	▲11.5
	11月	▲0.2	1.2	0.1	1.7	▲1.2	4.1	0.0	▲0.4	1.3	▲10.8
	12月	▲0.2	▲0.3	▲0.5	▲0.1	1.0	2.7	0.0	▲0.6	0.1	▲10.7
08	1月	0.0	0.6	0.4	1.0	▲1.9	2.9	▲0.4	▲0.7	0.4	▲10.1
	2月	▲1.3	1.8	▲1.6	1.7	▲0.3	5.1	▲1.3	1.4	▲2.6	▲9.6
	3月	0.3	▲1.0	0.0	▲0.5	▲1.4	▲0.7	1.7	▲0.6	2.5	▲9.2
	4月	0.8	0.3	1.9	0.7	▲0.4	1.8	▲0.3	▲0.3	▲1.0	▲10.6
	5月	0.4	▲0.5	▲0.2	▲0.2	2.6	1.2	▲0.1	▲0.3	▲1.8	▲12.2
	6月	▲1.0	▲1.3	▲1.0	▲1.0	▲1.3	0.0	▲0.3	▲0.7	▲1.1	▲12.9
	7月	0.8	0.3	1.2	0.7	1.1	2.4	▲0.4	▲1.0	▲1.7	▲12.6
	8月	▲1.7	▲3.3	▲1.3	▲2.2	▲4.1	▲6.9	▲0.1	▲1.4	2.0	▲7.8
	9月	0.0	▲0.6	▲0.7	▲0.9	1.3	0.2	0.9	▲0.1	0.0	▲3.4
	10月	▲0.5	▲2.5	0.4	▲1.5	▲2.5	▲7.1	0.2	0.0	0.9	▲1.1

(出所) 経済産業省「全産業活動指数」

○ 鉱工業生産が大きく落ち込み

10月の全産業活動指数は前月比▲0.5%とほぼ事前のコンセンサス(同▲0.8%、レンジ: ▲2.0%～+1.6%)通りの結果となった。7-9月対比で見ても▲1.0%となり、このところの全産業活動指数の悪化傾向が改めて確認された。

内訳をみると、プラスに寄与した指数は、第3次産業活動指数(前月比寄与度: +0.23%ポイント)、建設業活動指数(同: +0.04%ポイント)、公務等活動指数(同: +0.02%ポイント)であった。一方、マイナスに寄与した指数は鉱工業生産指数(同: ▲0.53%ポイント)であった。

個別に見ると、鉱工業生産指数(前月比▲2.5%)の大幅な落ち込みが目立つ。想定した以上の需要減退から在庫が積みあがり、企業は生産調整を余儀なくされているものと考えられる。第3次産業活動指数は、前月比+0.4%となったものの、7-9月対比で見れば、▲0.5%と悪化傾向に変わりはない。第3次産業活動指数においては卸売業や対事業所サービス業などの企業に関連する業種の落ち込みが顕著となっている。

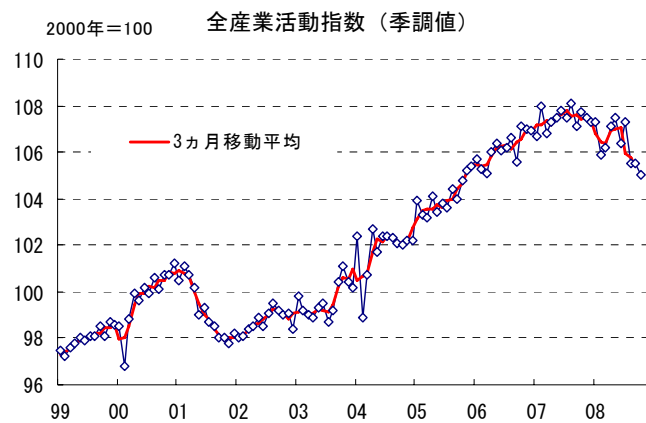
以上のことから全産業活動指数の現状を考察すると、海外経済の悪化による需要減→在庫の積み上がりによる生産調整→第3次産業活動指数の企業部門の低下という流れで供給活動の停滞が起きているものと考えられる。

○ 先行きも悪化が予想される

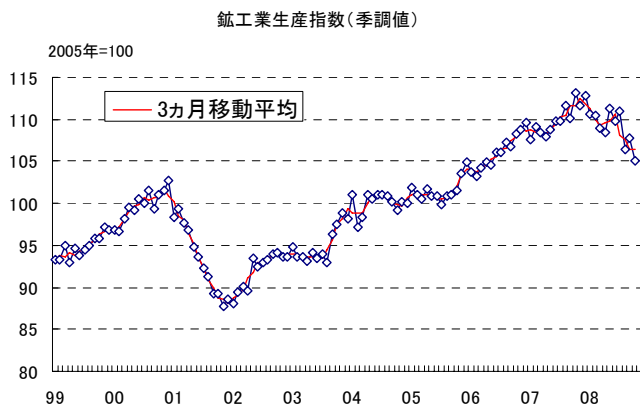
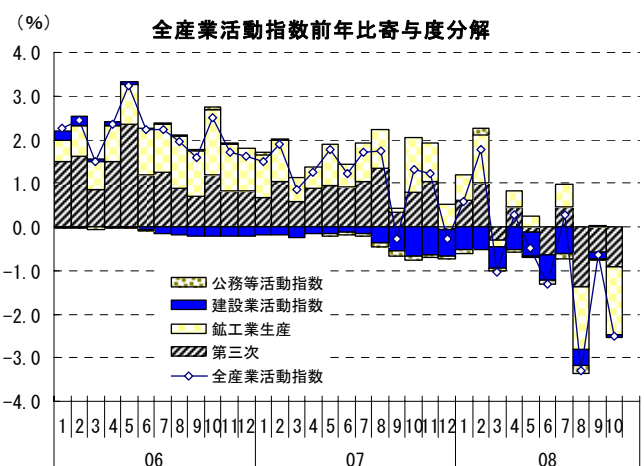
前述の通り生産の減少を中心に落ち込んでいる全産業活動指数であるが、先行きも同様の展開が続くそう
だ。これまで底堅かったアジア等新興国向けの輸出も、ここにきて落ち込みを見せており、更なる輸出の減
少が見込まれる。特に関連業種の裾野が広い自動車の減少幅が大きく、生産活動の抑制は当面続くものと思
えられる。国内消費の低迷に伴う在庫調整なども相俟って、鉱工業生産指数は不振が続くだろう。

第3次産業活動指数についても、輸出の減少やそれに伴う生産調整から卸売業や輸送業、対事業所サー
ビスなどの利用の減少が見込まれる。また、収益悪化によるコスト削減からシステム投資を先送りする動きが
増えており、情報サービス業などの活動も抑制される可能性が高い。家計部門についても、雇用・所得環境
が悪化しており低調に推移することが予想される。

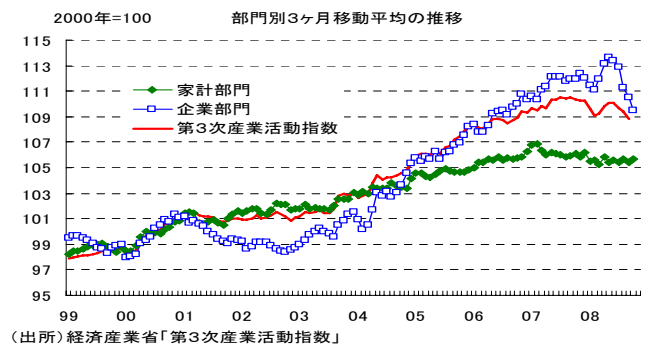
指数の大半を占める第3次産業活動指数と鉱工業生産指数で悪化が見込まれることから、全産業活動指数
の悪化傾向は当分続くと予想される。



（出所）経済産業省「全産業活動指数」



（出所）経済産業省「全産業活動指数」



（出所）経済産業省「第3次産業活動指数」

家計部門・・・映像・音声・文字情報制作、旅客運送業、小売業、不動産取引業、住宅賃貸業、飲食店・宿泊業、医療・福祉、学習支援業、対個人サービス業
企業部門・・・情報サービス業、貨物運送業、卸売業、貸事務所業、対事業所サービス業